

# 富岡の歴史と今伝える

## 復興の町

～未来に向けて～

富岡町にある「とみおかアーカイブ・ミュージアム」は町内一帯の旧石器時代から東日本大震災と東京電力福島第一原発事故までの歴史、それに関する資料や物品を展示している。ジャーナリストスクール第4班は8月3日、ミュージアムを訪れ、取材した。ミュージアム担当者の門馬健さん(40)は「町教委主任学芸員」は、「町のそのまの姿を伝えたい」と語った。

### アーカイブ・ミュージアム

## 壊れたパトカーなど展示



津波で流された常磐線の線路

とみおかアーカイブ・ミュージアムは、震災以外に富岡町の歴史も知ってもらうことが魅力の一つとなっている。江戸時代の人々を書いて

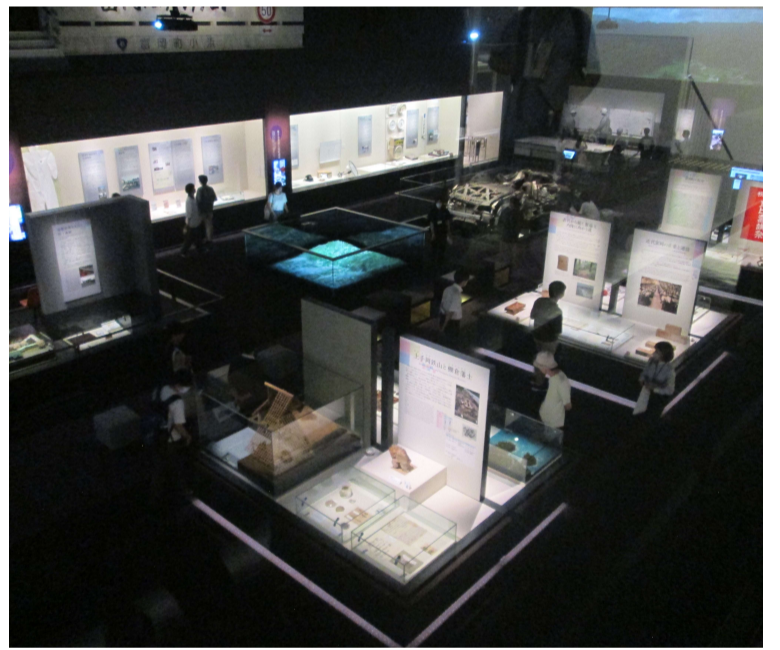
た日記や縄文時代の土器などの貴重な展示品を原形のままに展示できるよう、展示ケースの中の温度を一定にして管理している。門馬さんは「収蔵

庫の中は一定の温度のため夏でも涼しい」と教えてくれた。町では昔、製鉄業が盛

などが利用され、その鉄鉱石が展示されている。他にも、貝の化石など、さまざまな出土品を展示している。また、震災時の遺物と



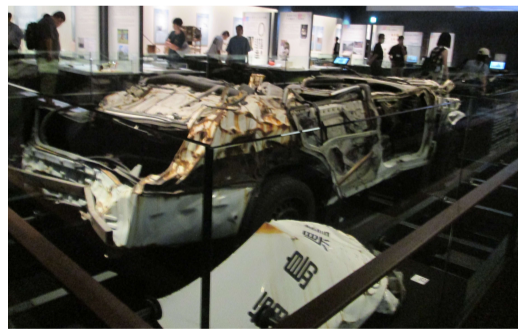
ライブカメラに24時間映っていた歩道橋には「富岡は負けん！」との横断幕が掛かっていた



2階から見たとみおかアーカイブ・ミュージアムの展示室



町民の家にあった懐かしい茶碗



いたる所がへこんだパトカー

して壊れたパトカーが展示されている。トランクのふたは外れて、車体は



富岡で出土した鉄鉱石など

いたる所がへこんでいる。このパトカーには当時、2人の警察官が乗っていた。2人は自分たちの命を懸けて町民の避難誘導にあたった。しかし、2人が乗車していたパトカーは津波にのまれ、富岡川の河口の近くで発見された。警察官の1人は今も行方不明のままだ。



取材班の質問に答える門馬主任学芸員

### 門馬学芸員

## 震災の記憶残す

「他人事と言わないで」

門馬さんが2014年に学芸員の仕事を始めた時、携わったのは古い写真を集めて東日本大震災が起きた時の「記憶」を残しておくことだった。2015年にアーカイブ施設整備が計画され、2019年に着工した。収蔵品は5万点ほどあるが、7割は元々町民の物だった。展示物の中には商店街の茶わんがある。「商店街の茶わんは、

お金の価値はないが富岡の人々が茶わんを見て、懐かしさ・安心感を抱いてほしい」と門馬さんは話した。しかし富岡に住んでいた人の中には「故郷に帰るのをやめようかな」と考える人もいた。震災の前は賑わいがある町だったが、今は砂利が敷いてあり、当時の賑わいがなくなったという。原発事故直後、避難していた町民が徐々に戻り、

門馬さんは「2013年の時も復興が始まった2017年の時も、想像以上に復興の進み方が早かった」と復興の早さに驚きながら、この6年間で振り返る。門馬さんは、土器の破片を組み合わせた富岡町の歴史の研究をしたりするなどして、今後は町の歴史の本を作り直したいと話した。最後に門馬さんは「へー そうなんだ、と他人事みたいに言わないで、今住んでいる場所の特徴を皆さんなりに考えてほしい」と強調した。

### 私達が作りました

- 安田 凛
- 吉田 涼乃
- 柳沼 悠人
- 二瓶 櫻
- 安齋 昂太
- 橋内悠貴哉 (前列右から)

